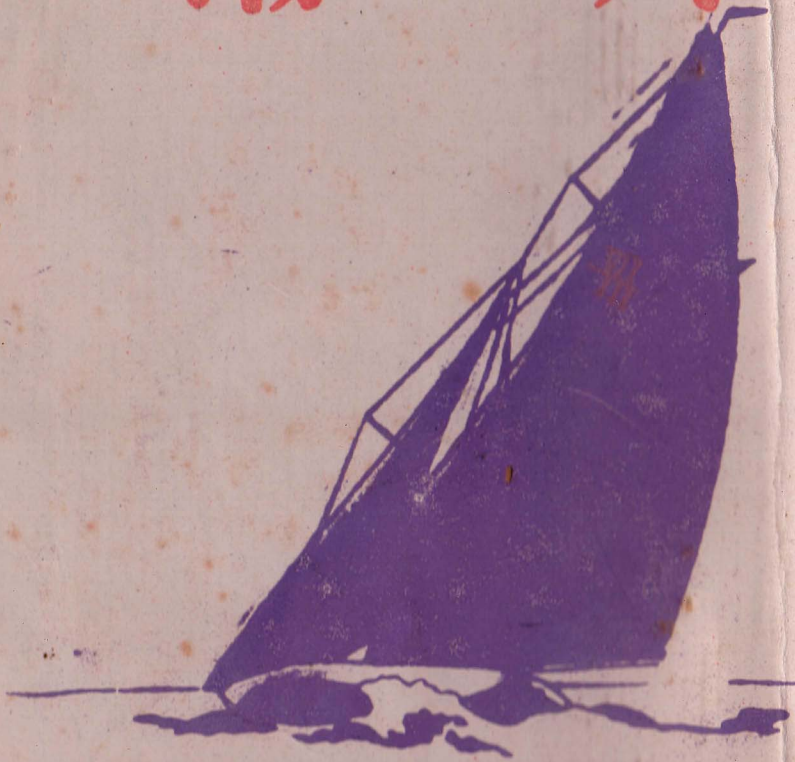


月報



日本ヨット倶楽部

NIPPON YACHT CLUB



OTSU

日本ヨット倶楽部

事務所

大津市 中保町

京都市河原町三條

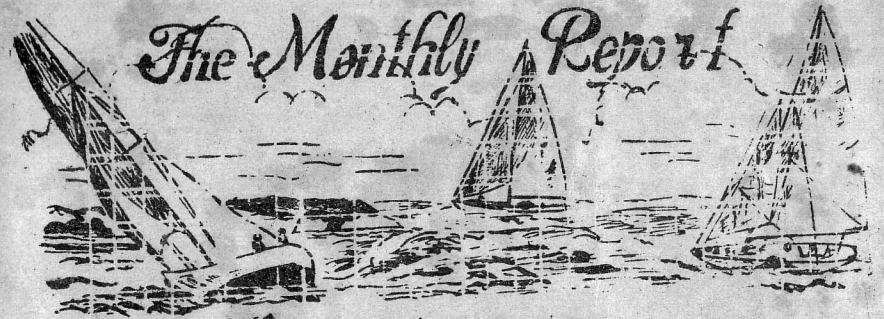
ツタヤ内

京都市豊楽町西町

吉本

紀伊

大津市 尾花川町



The Monthly Report

Contents

ニュース	26
五月の日記かう	16
快遊艇アラベラ (11)	12
面白い熱しいヨット競技 (長谷川英二)	8
ヴァルボート (鈴木英)	1頁



△ヴァルボート 鈴木英

獨乙ヨット設計界の老宿ラスムッセン氏のヤヌステンヨレに就ては即以前号に於て紹介しておいた。獨乙に於ける中型ヨットとして最も典型的なキユステンヨレは廣く獨乙ヨットメンの間に愛好せられて居る所であるが之はセンターボードを有する一種のセミディプキールヨットである。然るに最近に至つてアメリカに於てはスタークラス、スカンザナヴィヤに於てはドラツヘンクラツセの如きV字形の船艇を有する中型ディープキールヨットの出現するに及んで獨乙のヨット界に於てもV字型艇の中型キールヨットに対する熱望が勃然と起つて来たのである。スタークラス艇は専らレーズ用として設計

せられたものであつてキヌステンコレの様にクルウジンが兼用といふ譯には行かない。ドラツヘンクラツセとても同様である。然し獨乙ヨツト界はキヌステンコレの味を知つて居るので單にスタードラツヘン西クラスの様な艇を作るだけでは満足出来ない、キヌステンコレと同じ様な艇をキールヨツトで実現したいといふのが彼等の熱望であつた。此の期待に対して先づその名乗りを上げたのがヴァルボートなのである。

速さと、快適性と、耐波力と更に建艇費の安價なる事々が近代ヨツト建造に最も必要な要素である。此の四要素を満足し得るにはV字船底を有する艇而して鯨背甲板(アルデツク)を有する艇でなければならぬ。ヴァルボートの設計者ドミツラフ氏はかう叫んで居る。スタークラスの速さと安さはそのV字船底を有する處にある、艇の建造費を安からしむる爲に材料の安いものを用ひ安い午間を拂ふと云ふ方法は最も間違つた方法であつて材料は最も精選したものをを用ひ仕事は最も入念にやつて而かも全体に於て安くなければならぬ。之は實に大つかしい問題ではあるが艇の構造を造り易いものにするればよいではないか、曲線の極めてむつかしいものと比較的單純なものとの

較べて見れば安い材料を使つて雑な作り方をしたファインカーヴの艇より立派な木を使つてガツリニしろへたシンプルな艇の方が安く出来る、此の處に於てV型の艇は非常に好都合であつて而かもスピードのある艇が出来るのだ。之にヴァルデツク即ち鯨背甲板が加はれば鬼に金棒であつて耐波性、快適性の問題は容易に片付くといふのである。とは云ふもののドミツラフ氏自身も相当に考へたものらしくラスムッセン氏の教を乞つた所も多く、シユライベル技師、ヘルト造船監等に相談を持ちかけたものらしく此の三人の好意ある援助には深く感謝を表して居る。

田赤ヨツトメンには一言居士が多い事は獨乙でも変りがないと見えて此新設計に対してはドミツラフ氏の知る限りのヨツトメンは必ず何とか云はなければ承知がならなかつたらしい。V字船底に対しては最早スタークラスやドラツヘンクラツセの例があるのでさう問題とはならなかつたが鯨背甲板に就ては議論百出の有様で盡る所を知らぬ。しかし確信を有して居る彼ドミツラフ氏は机の上でいくう口角泡を飛ばしたつて何にもならない。紙の上に引かれた図面ばかりで文句を云はれて居たつて實際に木の上に浮く艇が出来て

見なくちや判るもんかと云々ので愈々その談話通りの艇をこしらへてしまつた。圖面を見て文句を云つて居た一言居士連中の議論は實際の艇が進水して帆走するに至つて悉く見事に解消してしまつたのでドミツラフ氏の鼻息はとも凄いいものである。文句があるなら出て来い何時でも艇に乗せて走つて見せてやる。文句はそれから云つて貰はうと云ふ調子で何しろエライ馬力だ。

鯨背甲板は弯曲して居るから歩けないぢやないかと云ふ様な批難に対してはそんなり走つて居る艇の甲板の上が歩ける人があつたらうお目にかゝらう。平たい甲板だつて手離しでは歩けるもんかと云ふ具言。尤もヴァルボートの甲板はニス塗りではなく麻布が張りつめてあり中央部は弯曲が少くなつて居る。艇が航走中はラツク塗りの平たい甲板よりかへつて歩き易い。之は風上側の甲板はほゞ水平に近くなるからである。風下側の甲板は平たからうが弯曲して居やうが歩けるもんでないかう問題ぢやない。更に甲板の上には数本の縦水が打ちつけてあるから之が良い足場になる。以下トミツラフ氏が鯨背甲板の特長として擧げて居る個條を列記して見やう。

一、先づ鯨背甲板の方が平たい甲板より安く出来る。？。

二、平たい甲板より遙に強い。

三、平たい甲板よりもウォータータイトである。

四、甲板の乾燥が早い。波をかぶつても水は早く両側へ流れ落ちてしまふ。

五、波をかぶつた場合其波の圧力は平たい甲板に加はるより少ない。

六、準備排水量(レザイヴデイスプレースメント)が多い。

七、甲板下の空間大きく従てケビンに余餘が出来、フォクリルの空気の流通もよくなる。

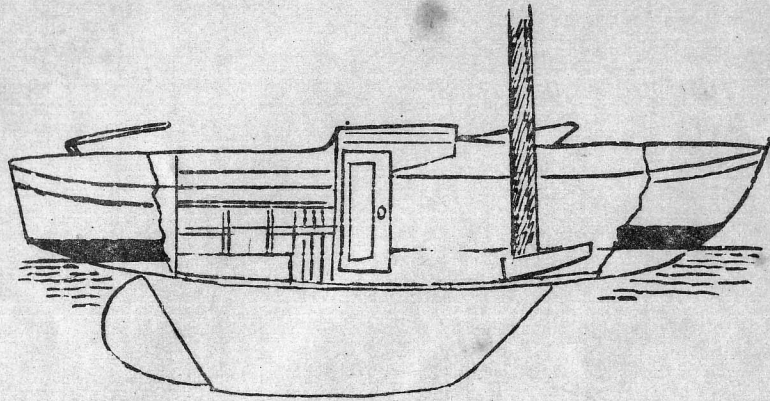
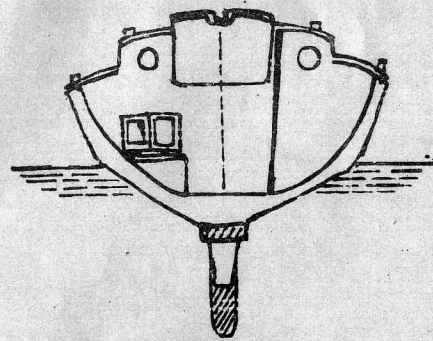
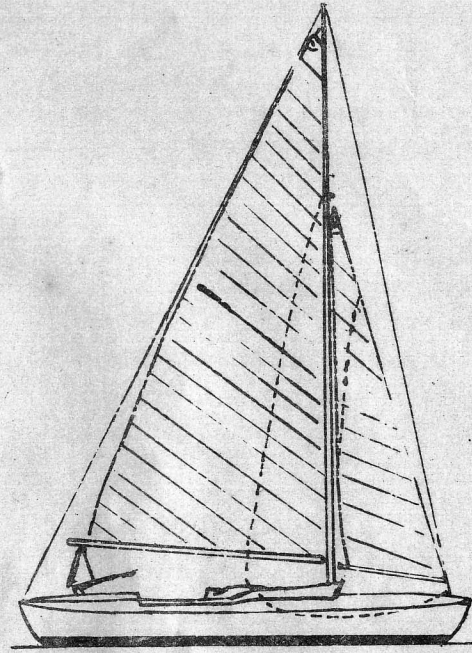
八、乾舷はづつと多くなる。然し風に対する艇体の抵抗は大きくなるない。

九、空気力学的に平面甲板より有利である。

十、ケビンの屋根が甲板の上に高く出る様な事はない。(デッキの上にヒユツテを建てて居るのは余り見つとも良いものではあるまいとドミツラフ氏は得意だ)

斯くの如き十大特長を有する鯨背甲板を批難する奴こそどうかしてゐると云ふのである。去る四月三日アルニスに於て目出度く進水しアレクサンドラフォンブルームンター嬢が三鞭酒の瓶をバウステムにぶつつけヴァル鯨と

命名された。帆の面積は二八三平方尺約三百八平方尺全長八尺五〇約二十八尺、爪線七尺二〇約二十三尺八寸、幅員二尺二〇約七尺二寸五寸、吃水一尺一〇全尺六寸三寸、セイルには鯨が潮を吹いて居るマークを附け其の下にIと云ふ番号をつけて居る即ちヴァルボート第一号である。之はスタークルスの星、ドラツヘンクラツセの龍に倣つてアルファベットの記号の代りに鱈を画いてクラスを示す記号としたものである。



鯨背甲板については右の通リドミツラフ氏が鼻高々である。所が我が晴玲瑠璃の両艇は敢てドミツラフ氏に教てもうつたわけではないが、ちやんと鯨背甲板を有して居る。之は桑野大氏が決してドミツラフ氏に負けない頭腦の所有者たる事を立証するもので我々は大いに心強く思て居る次第である。今年四月は東西期せずして鯨背甲板艇が前後して進爪式を擧げた。我々はただ此の事実だけを知つても我々の前に展けつゝある途を想ふ事が出来るのだ。

紺碧の爪面には白波が躍つて居る。

△ 面白い新しいヨツト競技 長谷川英一

厭つばい近代人はつぎからつぎへと新しいものを追つて居る。特定のストリートコースをセーリングする所謂ヨツトレースに聊か單調味を覚えこんなヨツト競技を考察して居ますが一度試みに俱樂部でやつてみませんか。

瑠璃色の水と空、その内に眞白の三角帆、御家族連のセーリングの時拵容易くて面白く危険性の絶対のない競技としてはセーリングフォックスやエッジングとでも云ひますがヨツトの鬼ごつこの様なものです。然し陸で坊ちゃんや嬢ちゃんの遊んでみえる鬼ごつことは違つて一隻のヨツトを皆で追つかけると云ふまるであたり近所は鬼だらけ鬼ヶ島にでも来た様な昭和ヨツトの桃太郎さんが逃げ場を失ふか、鬼を征伐するか何れ次号にでも書きませう。

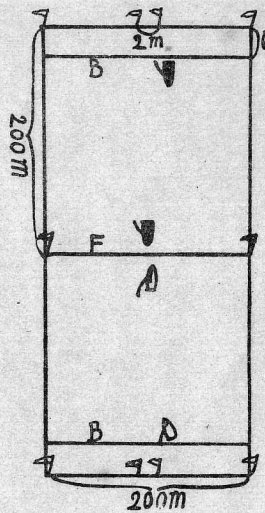
物て茲には鬼ゴツコとは趣を異にした男性的なスポーツ陸でのラグビー又はボロの様なもので之を水上でしかもセーリングをやつて競技すると云ふ大変愉快な男性的なものです。

数隻のヨツト紅白に別れ一つのボロ目掛けて乱れ飛ぶ歴史に勇壯なもの

ですがそれだけ技術を要し聊か危険性も伴ふかも知れませんがセーリングの技術さへ上達すれば決して危険なものではありません、でもラグビーの様にヨツトでタツクルやうれちゃ一寸たまりませんが其矣は競技上制限されて居ますから御安心下さい。

此の競技を強ひて名付けければヨツトボロとでも云ひませう。

一、ヨツトボロのフィールド



困つた事には陸と違つて白線を引く事は出来ないしロープを引いて区切れば時にはヨツトがロープにセンターを引掛けそれこそタツクルされるかも知れませんがそれでフィールドは旗で区切を付け各自之を守る事常に紳士的にオープンに競技する様に心掛けねばなりません。兔に角右の様なフィールドでやります。

A. AB二隻づつでやる時は右の旗に40m×200mのフィールドとする事。

B. ゴールポストはBの間の間隔として旗を立てる事。

C. 競枝継数が多くなればFに加へて一隻を増す毎に50mm宛フィールドの巾を広くする事。つまりフィールドを50mmx400mm拡張する事。です。

一、メンバー

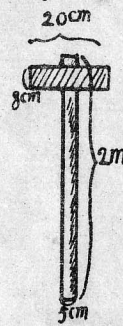
一隻の乗組は二人又は三人各艇同人数の事。

一、ボール

直径三十煙のゴム製ボール、重量一、五煙。

一、スティック(木槌)

長さ二米、太さ直径五煙。



一、競技時間

一時間前半三十方、後半三十方、休憩十方。

一、競技方法

A. 競枝の開き方はレフエリーがホイツスルを以て命命す。

B. サイド決定、A B 抽籤により決定す。

C. 仕合開始、レフエリーのホマツスルと同時にFはセンターラインよりボールを打ち開始す。

一、得点

A. ゴールインゴールポスト間にボールを打込む事。 五ポイント。

B. 犯則ある時相手側の得点。 一ポイント。

一、競枝規則

A. 開始の際双方特定の位置にある事。

B. 競枝中打球の際風上艇が風下艇に接觸せる場合風下艇は相手側六米ラインよりペナルティーストロークをなし得。

C. 接觸せる艇の双方何れにも帰着し得ざる場合はレフエリーの指定によりセンターラインより打球する事。

D. ラインアウトの際はボールを最後に打ちたる相手側の艇がタッチラインレフエリー指定より打球す。

E. ゴールポストに入らずゴールライン後方にボールの入りたる場合又は風の爲にゴールポスト内に流れ込みたる場合は防禦側は自分の六米ラインより打返し競枝を繼續す。

F. フィールド内にてボールを手にしたる時は相手側は六米ラインよりペ

ナルティーストロークを爲し得。

G. パスボールの際ボールより前方に出て取りたる時はオフサイドとして相手側はペナルティーストロークを爲し得。

H. ボールなき場合故意に進路を妨害したる場合相手側はペナルティーストロークを爲し得。

I. ペナルティーストロークを爲す場合は攻撃側は相手側の六米ラインにて打球す、打球する一艇以外はセンターライン後方にある事。防禦側はゴールライン後方にある事而して競技を繼續す。

J. 其他競技は一切レフリーの認定に依る事。
レズリーの命令に絶対服従する事。

△ 快遊艇アラベラ (II)

フィリップスは再び甲板へ出てホツとした気持になつた。太陽は相変らず灼け付く様な熱と眩暈のしさうな光を放つて燃えて居る。

サロンや高級船員室にも人影は見えなかつた。フィリップスは扉と云ふ扉は悉く開けて見た。空間と云ふ空間は皆んな調べて見た。炭水庫、食料品庫帆索庫と船内隈なく搜した筈だが遂に結果は空しかつた。

快遊艇アラベラは一名の乗組員をも乗せず大洋を漂つて居るのだ。一体ゴラヘツド御はどうしたのだらう。一名の爪夫の姿さへ見當らないとは何とした事だ。最初に予期して居た死体さへもない。フィリップス一等運轉士の頭には最早想像し得べき事がなくなつてしまつた。甲板に立つて海面を眺めて見たが眞青な爪がどこ迄も松がつて居る許である。パラグワイ号が舵を轉じて徐行し乍ら此方へやつて来る外には見渡す限り水平線迄海面には爪片一つ浮いて居ない。念の爲調べた短艇の数はちやんと揃て居るし、乗組員が短艇を卸して此のアラベラ号から離れた形跡は少しもない。血痕があるでも無し取り亂した所もなし、熱病で死んだ死体も無い。食糧も爪も未だ充分に續んで居る。乗具もキタンと整つて居る。總ゆる物は全然何事も起らなかつた状態に在るにも拘らず人間だけが居ないのである。

しつこい沈黙がアラベラ号に覆ひ被つて居る。

航海日誌を開いて見ると前日迄の記事がしつかりした文字ではつきりと書

いてある。針路、風位、風力、展帆状態等々航海日誌に記載さるべき事は洩らさず正確に記入してあるが乗組員消失の原因と思はれる記事はどんなに綿密に調べても一行も一語も書かれて居ない。

遂にフリリツプスは本船へ引上げを命じた。短艇へ乗込んでも此の謎は依然として解けない謎だった。赤道の洋に漂ふ無人の快遊艇。海の神祕。

パラグワイ号へ帰り着いた短艇の乗員は忽ち質問の渦に捲き込まれた。フリリツプスにはつきりしない顔付で一言も答へず船長に報告の爲船橋へ上つて行つてしまつた。残つた爪夫産が彼等に浴せかけられた問に対して彼等が見て未だ結果を訪て聞かせた。誰もが期待して居た結果とはまるで違つた不可解な報告には誰もが奇異の感に打たれずには居られなかつた。誰の説も彼の意見も悉く裏切られてしまつた。一人として此の謎の解決に光明を與へ得る者はないのだ。

船橋では船長と運轉士達とが会議を開いてゐた。此のアラベラ号を處置すべき方法が研究されて居るのだ。此の儘アラベラ号自身の運命に任せて放つておく事は宜くない。今後如何なる危険な厄介なものとなつて一般航行上の

障害になるかも訪り難いからである。スコツト船長の案は手つ取り早い手段として彼女を焼き捨てること云ふ方法だつた。フリリツプス一等運轉士は彼女を操つて最も近い英国の港迄持つて行く事を提案した。若し自発的に申し出る希望者が二三人あれば彼等と一緒に乗組んで行くから是非さうさせて頂きたいと希望した。快遊アラベラ号はその善美を盡して居るので有名なのである。それをむざむざ焼き沈めてしまふのは惜しい事だ。假令それだけの手数をかけたとしても英国迄持つて帰れば償つて余りある船である事は船長にもよく判つてゐた。暫らく熟議を重ねた末、遂にフリリツプス一等運轉士の希望が容れられた。彼はアラベラ号の指揮者となつて、進水して以来一度もアラベラ号が錨を入れた事のない英国の港に向つて航海を始める事となつた。





五月の日記か〜

五月一日 五月だ、若葉だ、青空だ、朗らかな夏の尖兵だ。

北々西のゼントルブリーズは爽かに頬を撫でる。めつきりと夏らしくなつた様だ。さあ来週は講習だ、晴波を引出してセンターボードトラングの周囲に松脂をバラフィンで溶いて流し込む、古いセイルを新しいのと取り換へる。初夏の太陽が眩しい。晴玲も桑野造船所から帰て来た。晴波は暫く浮して置く事にして晴琳、晴玲、晴浪、晴嵐の四艇は各クルウを乗せて滑り出す。中塚氏の十六ミリが廻轉を始めだ。お晝の御飯は例によつて賑かだ、お嬢さん達も健康な意慾の競走だ。宮崎夫人が炊いて下さつた御飯が特においしかつたのか、炊事軍曹殿の飯だつて不味かないぞ、それとも今日は皆んなの腹が特に空いて居たのか、見て居る中にお釜は空になる。沖田嬢のお壽司も忽ち片捕う

れてしまつたが未だ欲しさうな顔ばかりだ。

午後は益々風の調子がいい。晴玲、晴琳は先発して柳ヶ崎で待つて居る。やがて四艇揃つて編隊帆走を試みる。指揮は吉中キヤプテン、ピフアザウインドで快走だ、目標は津市役所……司令艇かう叫ぶ。OK:OK:OK:各艇から答へる。シートを一杯に伸ばして艇首を並べた四艇が四本のウエークを残して走る。走る。中塚氏は午前中に使つてしまつた十六ミリフィルムを残して置いて置けばよかつたとしきりに口惜しがる。すつかり五月の薫風を満喫してしまつて舳を艇庫へ向けた時方から風が落ち初めて遂に全くの無風になつてしまつた。流石に五月の薫風も日本ヨット倶楽部の連中みたいにくらでも調子に乗つてきりが無い奴等にはかなはないと見て吹き惜しみをやりかける。漸く艇庫へ歸つて艇を片づけ講習会について最後の打言せを行ひ、ややくたびれて帰途につく。

五月三日 暢気な男二人松山、吉中衛の両君未完成の京津国道をドライブならず自轉車の合乗りで無聊のはけ口を靈湖琵琶に求めて出かける。

約二時間かゝつて愛艇の大掃除をし北西のコータリーに乗つて膳所の
松原に向つた。丁度西のの艇が山田に向つてやつて来た。爾来人間と
云ふ動物は競争を無暗にしたがるものだ。勝てば得意になり負ければ
何とかかとか難癖をつける。厄介な動物だ。今日も向小から挑戦しか
けて来たので大人げないが増長すると始末に悪いこちらも之に應ずる。
スタートが同じなれば勝つに決つて居る競争なんかやらないんだが相
手の艇は一〇〇〇米も風上に居るんだからこちらも眞剣だ。乗せても
うつて居る人は恐ろしく結果だけを批判するに違ひないから名譽に關る。
もとより愛艇はぐんぐんピツチをあげて濱大津で追抜く。コッヘルで
コーヒなんか沸して飲み、暫く航走した後納艇する。

五月十日

家に居るには勿体ない上天気。果して吉本正雄、善孝と叔父甥の
西氏亦し合して湖岸に姿を現す。丁度吹き始めの強風で現在の艇は風
が強いと波の爲りロスホールドの場合スピードが出ず壯快なセーリン
グと云ふよりむしろ不快の方が大きく、今日も柳ヶ崎沖迄行つてメイ
ンスルを下しバルンセイルとダブの互で走る。此の方が安全で愉快だ。

柳ヶ崎で食事済ました所へ山田沖に出て居たかもめがやつて来た。
兼壽生が三名乗つて居たが共に話をする。其口ぶりでは自分こそ一か
どのヨットマンと小からず思て居たらしい。其所でキヤアテンと特意
のC.E.センターエホートとC.L.R.センターオブラテラルレジスタンス
の關係を滔滔と長講一席に及ぶと彼の三氏呆然にとられて居た。どん
なもんだいと少々得意になつてバルンセイルをあげ濱大津に向つて突
進する。やがて納艇して一休みすると六時半。柳京元ではないが蒼然
たる暮色感き自り至る中に燈火の瞬くを眺めネービーエアに腰を下
してココアを喫するのも風情がある。

五月八日

窺じて居たお天気は依然よくなりない。七時頃から愈々本式の
降りだ。東南東の強風だ。到底講習会の見込が無い。八時半遂に中止
を発表する。京津 三條終売では吉本長谷川両氏が引きりなしにかゝ
つて来る電話の問合せ、わざわざ出かけて来られた会員の方々の應接
に暇無しの有様だ。十時半頃漸く切上げて大津へ。濱大津で待つて居
た宮崎、鈴木両氏と一緒に向はともあれ艇庫へと云小ので出かける。

晝飯も夏はず炭火を囲んで漫談だ。レコードをかけ乍ら雨の湖面を眺めて艇庫でしゃべつて居るのもセーリングを享樂して居るのとは亦変わった味があつていいものだ。とうとう喋りくたびれてお腹がひもじくなつた後等は艇庫を引上げ魚善へ流れ込む。此處で腹が出ると又しても漫談が息を吹きかへす。とうとう十二尺のシングルハンテッド用の艇を五十円でこしらへる計畫が出来てしまふ。各人が凡る知識を傾け十二尺の艇として之以上のものは出さないと言ふ奴を設計しやうと云ふ事になり之を今シーズン中の宿題と決める。一人で簡単に扱へる艇が五十円で出来る柳になればヨリトもより以上一般的に普及する事になりはしないかと思はれる。勿論保管設備の問題もあるが。

五月十二日

観光協会の總會が湖上で開かれるので近畿協会からヨットを出して嬉しいと云ふ希望があつた。柳ヶ崎で午餐の予定だから協会員中の希望者をヨットに乗せて上げてもらうへまいかと云ふ話だったので兎に角四艇出す事にする。左舷今日はも天気は芳しくない。南西のゼントルブリーズだが小雨が降つて居る。遂に観光協会の柳が崎上陸はお

流れになつて島廻りに出かける。兎に角四艇で其の出帆を送る。中塚氏は船内で十六ミリを映写して興を添へる續りで協会の人達と一緒に乗込んで行つて見たが級丸の電気のソケットが特殊の型のものである為映写機が動かず遂に駄目だつたとの事。島廻りの級丸が帰つて来る迄艇庫でレコードをかけ八日同様漫談を始める。今日はパンを嚙つてお腹をこしらへて居るから大丈夫だ。午後三時再び出艇。雨は止んで居る。級丸を迎へ浜大津迄遺伴帆走する。去年はシーズン中天候に恵まれ續けて雨に降られた日はたつた一日しか無かつたのにどうも今年はお天候運が悪いなあと思ふ。これぢや梅雨時が心配だ。一月禁足を喰つたら我々すつかり巾口垂れてしまふ。テルテル坊主でも作るかな。

五月十五日　　ワイお天気だァー！　電車のスピードが今日は馬鹿にのうい。ムーアリングブイを入れたり、標識浮標を入れたりして居る中にもう会員の方がぼつく見える。開会予定の十時前にやつと天幕を張つたりなんかして居る有様なので少々慌て気味だ。それでも予定から十分だけ遅れて開会。宮崎氏の挨拶があつて吉本氏の講義が始まる。ヨット

の種類、帆走原理から始つて約一時間半熱心な会員達は一言も聞き流すまいと云ふ態度だ。講義が終つて吉市(善)、松山西君は晴琳にて奥地に説明する。やがて九艇に舟乗し偶に吹いて来るそよ風をキヤツキして帆走し会員の質問に種々應答の暇がない。晝飯も食はずと云ふ有様上田マネーザ風がないのでボートに乗つて廻漕しレコードをかけハッ橋をくばる等サーピス良しくと云ふ所。四時過ぎよりやつと良い風が出て来たが後始末の事もありやがて切上げる。やつと重荷を下しなつとした我等はテーブルを囲んで食パンをばくつき雑談する。疲れた体も尚元氣一ばいに艇庫に別れを告げ近畿協会の小国氏の晩餐会に招かれて錦光社へ向ふ。

五月十六日 日浩かう寫眞をとらせてくれと云ふので昨日の疲れも残て居るが大津へ出かける。今日も昨日におとうない位の上天気。上田、中塚、山本、勝間、松山、吉本(善)の六氏は四艇に乗つて濱大津に向ふ。朝かう風が少しあり氣をよくする。ボータブルかう流れるメロデーを微風にたどよはせ羨望の眼指しのぞく緑丸の周囲を廻遊する。

やがて日浩の人々も見えたが一緒に艇に乗り柳ヶ崎に向ふ予定の所女優さん達のお化粧に三時間位かゝると聞いてそんなに待たされてたまるもんかと先へ行く事にする。相変らず中塚氏のカメラが軽快な音を立てて廻轉する。朝の間に済むつもりであつた上田氏は都合で途中でお別れする。柳ヶ崎の木影でボータブルをかけて待つ事小一時間小々憤慨しかけた所へやつて来る。やがて寫しにかゝつたがえを側で見て居るのもいゝかげんなものだ。眞夏の柳な太陽は容赦なく降り注ぎ風もすつかり落ちことも熱い。レレも良いだらうと云ふのでとりに行くと、夏川静江、伏見信子、市川春代、黒木しのぶ、藤村美也子と五嬢で無慮五六枚寫した後、記念寫眞をとり五時過ぎ別れて女優さん達のサヨナラの声に送られ人の息経の北風を受け雇々として艇庫に向ふ。

五月廿二日 お天気は余りよくない。鉛色の雲は低く流れてゐるが風は南西のフレッシュユブリーズだ。講習会会員の方が数名来て下さる。晴浪を残して四艇に各々方乗して頂き一日を練習に費す。十五日には殆ど無風状態だつたのと会員の数が多かつたので思ふ儘にやれなかつた憾があ

つたが今日売られた熱心な人達はとてむい風に恵まれて気持ちよく帆走してヨットの快味を味つて帰られた。クラブ員達と一緒に艇の格納や艇内の掃除等も愉快に手傳つて頂く。

五月廿三日 二時頃長谷川氏より電話で滋賀縣の地方課長が 乗せてほしいと云小ので吉本(善)君三時頃より艇庫へ出かけて待つて居る。やつと四時過ぎ地方課長、内務課長他二名の方が来られ出艇する。もつと早いと良い風があつたのに夕風ぎになつて風が大部落ちてしまつた。六時過ぎ別れて歸庫する。

五月廿八日 又先日地方課長殿が乗りたいたいと云小ので吉本(善)君出かける。どうも天気がよくないので中止になつたとの事。仕方がないので免に角愛艇にニスでも塗らうと思つて出かける。天気も快腹して来たし良い風があるので一人で出艇する。一中のボートレースがあつたので湖面は賃ボートが澤山出て居る。今日はボート屋ほくほくだろう。

五月廿九日 もうすつかり夏だ。北西のゼントルブリーズ、空には綿を4切つた様な雲が浮んで居る。今日は子供デーだぜ、ホホウと眼を丸くしな

くちやならない位未未のヤツツメン。ヤツツウイメン達が多い。善良なババ達に乗せてもらうつて可愛い坊ちゃん嬢ちゃん達のセーリングだ。嵐、浪、波、玲、琳の五艇共出てしまつて艇庫は空っぽ。上林氏のお母さんも若い者や小さい子供達に負けない元気でヨットをエンジョイされる朗らかな湖上風景である。講習会会員も先週同様に数人見え左が中にもクローズハウルドの場合艇のキールラインと風の方が作る角の二分の一の角度にブームを出すのが最も能率が良いと云小事を数學的に証明して来て下さる方もあり大変愉快だ。ブームの角度が三十五度、艇が風に対して六十度の附近がその中でも最大の効果が收め得ると云小結論をも得て居られるが之は艇のリギングやハルの構造乃至は艇の癖等が非常に大きな影響を及ぼすので実際上の結果 と果して一致し得るかどうかは未だ立証出来てゐないが今後の問題として興味深い研究題目である。モデルヨットでもこしうへて実験して見れば面白いだろう。一歩でも次の問題へ踏み込んで行くと云小事は徐々に盡きない興味を齎らすものだ。午後になつて風が落ちてしまつて一時間は

かりは油の赤な糊面で立往生の態だったが、四時半頃から良い風が吹き始め、五時にリースのスタートガンが鳴る。晴嵐、晴玲、晴琳の三艇は号砲と殆ど同時にスタートラインを超え晴嵐リードして第一浮標を廻る。艇庫前浮標では晴玲や、遅れ晴嵐、晴琳は雁行して第二週に入る。スタートに遅れて出た晴波、晴波も前の三艇を追い晴玲の横に迫る。二周目も晴嵐晴琳トップを争ったが接戦を瘦じつつ遂に晴嵐ゴールに入る。第一週に遅れて晴玲は其差を縮め得ず晴波晴波もスタートの立遅れを挽回に力めしも成りずそのまゝゴールに入る。

今晚から晴嵐は周航に出かける、丁度良い風だ、多少天候悪化の懸念は無いでもないが大丈夫だろう。切にその壯舉の成功を期待する。



日本向きキキヌステンヨレ 鈴木 英

横濱在住の獨逸人レムケ氏ケルツプ工場の日本駐在員は獨逸本国では相当鳴らしたヨリトマンだったが、昨年本国へ註文中の日本向きキ

ユステンヨレが此の怪完成したので愈々之で横濱の英國人共の鼻をあかしてやるのも近々だと云ふ事だ。デイマハトに其のデザインが出て居り。鷹嶽も載つて居る。ツイジと云ふ名が付いてある。全長六米、幅二米がツナリした艇だ。キステンヨレだからセンターボードのあるセミデイブキールだ。帆の面積は二二平方米約二百四十平方尺。スピナーカーバルン等はメインセールより大きいプランである。一寸見たいなと思ひますね。

△ お慶び

吾等のマネーゲマー上田健治郎氏は今般華屬の典を擧げられました。倶楽部員一同心かうお慶び申し上げます。

△ 遇伯樂

安盛善作氏は左記へ御就職になりました。

兵庫縣武庫郡瓦木村

新興毛織工場

煙史の煙を見こは風向を考て居ますとの事。伯樂を得た折角の千里の馬も自修業とやらにつながられては淋しさを託て居る事ぞせう。糊国の便りを送てやつて下さい。